

事例 30 思考展開シート

(1) 疾病や薬の副作用等の影響は考えられますか？

・短期記憶力が低下しているため説明はその時のみ理解できるが、すぐ忘れてしまう。

【質問】
 同じ質問の繰り返しに対して、説明はどのように伝えていきますか？
 口頭による言葉での回答だけですか？

【回答】
 ほとんどが口頭ですが、紙に書くこともあります。しかし、書いてもらったことを忘れてしまうので効果はありません。

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹等による苦痛の影響は考えられますか？

【質問】
 体のどこかに痛みやかゆみを抱えていますか？
 排便は規則的にありますか？
 食事前の空腹時には目立つ様子の変化がありますか？
 夜はよく眠れていますか？

【回答】
 痛み、かゆみはありません。排泄も正常です。最近排泄に間に合わないときがあるので、リハビリパンツの対応に変わりました。トイレに誘うことが難しいので、声掛けによる不快な思いを軽減させるためにリハビリパンツにしています。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさ等の精神的苦痛、また本人の性格等の影響は考えられますか？

・グループホーム内に家族（夫、娘、息子）がいないので、心配している。グループホームを病院のように思っている時がある。「私いつ退院できるのかな。」「明日は迎えに来てくれるよね。」と言うことがある。
 ・本人の性格は、家族のことを常に心配している心配症。

【質問】
 他の入居者や職員の中に、本人の心配を分かち合う関わりの人や場面がありますか？
 何故、常に家族の心配をするのでしょうか？

【回答】
 職員には、本人の心配を受け止め、「心配ですね。」と声を掛けて欲しいと伝えているが、繰り返しの質問にマニュアル化された回答をしてしまっている。
 なぜ家族の心配をするのかはわからない。

(4) 音・光・味・臭い・寒暖等感覚的な苦痛を与える刺激の影響は考えられますか？

・日中はほぼ共用スペースの食堂で生活している。ドアや窓が開いていることがとても気になり、夏でも閉めてしまう。真夏の暑さでも、「寒いので閉める。」と言う。誰かが、「暑いから開けておいて。」と言うので、訳が分からなくなり混乱してくる。

【質問】
 「寒いから・・・」と言うAさんの手足に、冷えがありますか？

【回答】
 特にはありません。

(5) 家族・介護者など周囲からの過剰、あるいは少なすぎる関わりの影響は考えられますか？

・介護員が1対1で関わっている時には訴えがない。
 ・食堂に誰か（他の利用者でも）と一緒に座って話しているときは訴えがない。
 ・娘と電話をした時は、訴えの無い時間が長いこともある。

【質問】
 職員が1対1で関わる時、どれくらいの距離に座っているのでしょうか？誰かと一緒に座るときの椅子や、お気に入りの場所がありますか？

【回答】
 同じテーブルを囲んで話します。隣同士やテーブルの仲間同士です。特にお気に入りはありませんが、いつも座る場所は決まっています。

(6) 障害程度・能力の発揮に対して、住まい・器具・物品等物的環境による影響は考えられますか？

【質問】
 グループホームを病院のように思っているときがあるAさんですが、今の暮らしの中に馴染みの品々はどんなものがありますか？
 Aさんが好んでゆっくりできる決まった場所がありますか？
 それはどんなしつらえのところですか？

【回答】
 自分の部屋だという認識があり、一人で行くこともできますが、日中は、ほとんど自分の部屋には行かず、皆がいるリビングにいます。居室には、ベッド、小さなテーブルに写真立てくらいで暮らしのおいはあまりしません。グループホームへ入居する直前は施設にいて、自宅での暮らしから大分離れているので馴染みの品物はありません。

(7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティー（活動）とのズレによる影響は考えられますか？

・「ここにいってもつまらない。」と言うことがある。縫い物は長続きせず、すぐに飽きてしまうこともあるが、職員や他の利用者が一緒にいるとしばらく続くこともある。
 ・歌は好きであるが、自分から歌い出している時や職員からリクエストされて歌う時の方が嬉しそうである。誰かに歌詞が違うなどの指摘をされると急につまらなくなり、「帰りたい。」という訴えが始まる。

【質問】
 自分から歌う曲名は？
 間違いを指摘される箇所は決まっていますか？
 歌以外にもAさんが自分からやる行動がありますか？

【回答】
 ある外国の国歌やお気に入りの歌があります。
 2番の歌詞が出ないで1番のまま2番も歌い、指摘されてしまいます。歌以外はうろろ歩くくらいで、食事の用意や掃除など、暮らしに必要なことには一切興味がありません。

(8) 生活歴・価値観等に基づいた暮らし方と、現状とのズレによる影響は考えられますか？

・Aさんは、娘と暮らしている感覚になっている時があり、帰って来ない娘を心配している。本人がグループホームで暮らしているということを理解できていないのに、他の利用者にも「帰れないこと（現実）」を言われてしまう。また、理解できないことを馬鹿にされてしまう。
 ・トイレに行く時にちり紙（ティッシュペーパー）を持って行く習慣があるが、トイレにはトイレットペーパーがあることを他の利用者に説得されてしまう。これも馬鹿にされてしまう。

【質問】
 娘と暮らしているとAさんが思うときはどんな場面ですか？
 トイレに行く際に説得する他の利用者は決まった人ですか？

【回答】
 「子はいつ帰ってくるか知っているか？」と聞きます。「どこに帰ってくるの？」と聞くと、「ここだよ。」と言います。また、「子さん、帰り遅くなるよ。」と言うと納得することもあり、一緒に暮らしている感覚になっているのかと思います。
 トイレットペーパーについては、同じ方から指摘されます。その方は、繰り返される同じやりとりを嫌だと思っています。

本人の言葉や状態
 ワークシートC- に書いた、本人の言葉や行動を書き出し、関連のありそうな情報を整理してみましょう。

・「子はどこに行ったんだろうね。」
 ・「お父さんはどこにいるか知らないかね。」
 ・「私はいつ帰れるのかね。」
 と、急に心配になり職員に繰り返したずねる。
 ・職員の話に一旦は納得するが、すぐに忘れて同じ質問を繰り返す。
 ・機嫌の良い時は鼻歌を歌って歩いている。座っていても歌が出る。
 ・傍に誰かがいると機嫌の良い状態が続く。